

黄体ホルモンを活用した牛受胎率向上技術

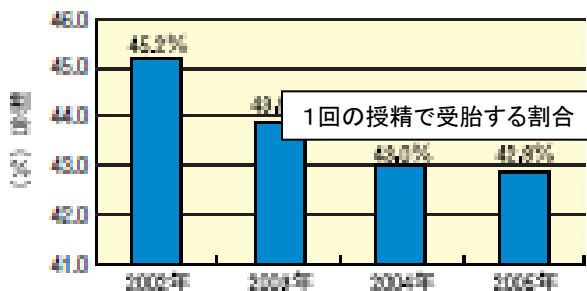
現状

1 本県の乳牛飼養管理条件

・夏季は高温多湿が長期間続く

2 繁殖成績および受胎率の低下

受胎率向上技術開発の必要性



対応

黄体ホルモン製剤を活用した場合の黄体ホルモン値と受胎率との関係が不明

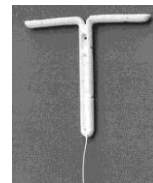
黄体ホルモン製剤を活用した受胎率を向上する技術開発が必要

(研究内容)

- 1 受胎率の向上に関する研究
 - ①分娩後に行った人工授精後の黄体ホルモン製剤の装着時期と受胎との関係を解明
 - ②不受胎牛における黄体ホルモン製剤と受胎との関係を解明

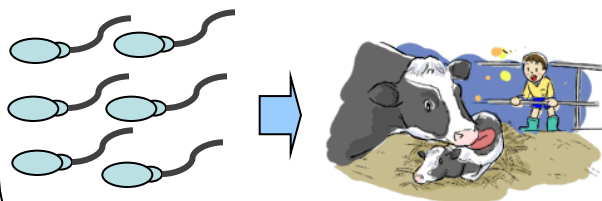
※黄体ホルモン

主として黄体や胎盤から分泌される雌性ホルモン。子宮内膜を変化させて受精卵の着床を円滑にする。



黄体ホルモン製剤

- 2 不受胎牛の早期摘発に関する研究
 - ①不受胎牛における黄体ホルモンの推移と受胎との関係を解明
 - ②黄体ホルモン製剤を活用した不受胎牛の類別開発
- 3 受胎と血液性状の関係分析
 - ①血液中の糖、脂質、蛋白質および生体活性ホルモンと受胎との関係分析



(研究目標)

- 1 繁殖成績の向上
着床率7%向上
(早期胚死減の低減)
- 2 不受胎牛の早期摘発による空胎日数の短縮化
1周期(21日)短縮
194日 → 173日



(期待される成果)

- ・空胎期間の短縮
- ・繁殖成績の向上による安定した生乳生産

